

中国でカーボンピークアウト政策が相次ぐ

◆工業分野と科学技術活用でカーボンピークアウトの実施方案

中国では2022年8月、「[工業分野のカーボンピークアウト実施方案](#)」と「[科学技術活用によるカーボンピークアウト実施方案](#)」が相次いで発表された。

20年9月に習近平国家主席が「30年までのカーボンピークアウト、60年までのカーボンニュートラル」と国連で演説し、21年10月には「[30年までのカーボンピークアウト行動方案](#)」が策定された。30年までの行動方案で重要10分野とされたのが工業や科学技術などで、今回の実施方案は分野別の具体策となる。

◆鉄鋼・化学などを重点に省エネ、脱石炭を進め、CCUSやBECCS技術に取り組む

二つの実施方案では共通して、以下に言及している。第一に、重点業種として鉄鋼・セメント・化学工業・非鉄金属・建材などが挙げられ、過剰設備や老朽設備を淘汰して、低炭素な省エネ設備に置き換える。第二に、熱エネルギーを石炭燃焼から電気に転換し、電気は石炭火力発電から再生可能エネルギーに置き換え、さらに水素エネルギーの利用を拡大する。第三に、CCUS（炭素回収・利用・貯蔵）やBECCS（CCS付きバイオマス発電）技術を開発、実用化する。

科学技術実施方案では30年までに50の重点プロジェクトを展開するとし、工業分野実施方案では化学工業の重大行動として25年までにCCUSの実証を加速し、30年までに合成ガスからオレフィンやエタノール製造を実現するとしている。

◆60年には生態系の炭素吸収と人工的な炭素隔離でカーボンニュートラルへ

カーボンニュートラルに向けて、[中国科学院のシナリオ](#)では、中国のCO₂排出量は30年に110億トンでピークアウトし、エネルギー転換や工業分野の排出削減で60年には30億トンとなる。これに対して、現にある生態系の炭素吸収に加えて植林や都市緑化、海洋での吸収などで▲20～25億トン、CCUSなど人工的な炭素隔離で▲5～10億トンによって、カーボンニュートラルが実現する。

CCUSについては22年8月、[中国石化によるEOR（原油増進回収）型の実証プロジェクトが稼働](#)し、CO₂輸送パイプライン建設も着工した。 【長谷川雅史】